

国立病院機構熊本医療センター

No.178



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096)353-6501(代)  
FAX (096)325-2519

## 院長に就任のご挨拶

かわの ふみお  
院長 河野 文夫



国立病院機構熊本医療センター病院長として手腕を発揮してこられた池井聰先生の後任として、4月1日に院長を拝命いたしました。当院は熊本県の中核病院として、地域住民の方から多くの期待と信頼を寄せられている病院でありまして、院長としての重責に身が引き締まる思いです。当院では昨年6月にヘリポート竣工、7月に心臓血管連続撮影装置の更新、8月に保育園新築工事の竣工、12月にプレハブの保育所・更衣棟撤去、駐車場整備工事が終わり、2002年に現在の看護学校敷地の史跡調査で始まった病院現地建て替え工事は、約10年を経てすべて完了しました。一方、昨年開業した新幹線による交通革命により、35分足らずで福岡に行けるようになりました。これにより徐々

に医療圏に変化が出てくると思われれます。熊本医療センターも救急医療に加えて、更に高度な医療を提供できる病院を目指したいと思ひます。当院の基本理念は「最新の知識・医療技術と礼節を持って、良質で安全な医療を目指します。」です。より高い医療レベルを目指しながら、患者さんに温かく、心のこもった良質で安全な医療を提供したいと思ひます。また、従来通り“1年365日24時間、断らない救急医療”のスローガンを掲げ、医療連携を通じまして開放型病院登録医の先生方のお役に立てますよう、全職員が一丸となって努力精進を続けたいと思ひます。今後ともよろしくご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



## 「認知症フォーラム in 八千代座」

山鹿回生病院

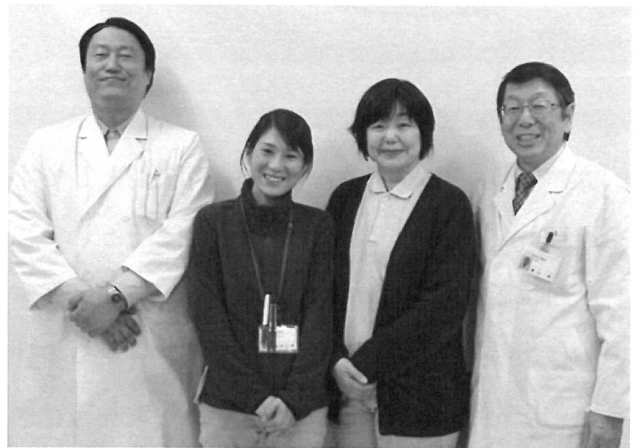
院長 森山 茂

私どもの病院は精神科が専門ですが、県内に9ヶ所ある地域拠点型認知症疾患医療センターに指定されてから、地域のニーズでもある認知症高齢者の診療に携わることが多くなっています。

山鹿市は認知症への取り組みがとても活発に行なわれている地域です。先日も、毎年恒例になっている認知症フォーラムが八千代座で開かれました。例年、地元の「せからしか劇団」を中心に、関係者が参加しての肥後にわかが好評で、小生もチョイ役で使ってもらいました。玉三郎と同じ舞台に立っていると思うとちょっといい気分です。シナリオはありますが、一発の受けを狙ってのアドリブ演技OKです。くまもと千代松（八千代座キャラクター）も遊びに来て賑やかなものでした。今年は認知症の人の自動車運転に関する劇でしたが、みなさんに一緒に考えていただく機会になったのではないのでしょうか。認知症疾患医療センターには、このようなフォー

ラムを通して地域の方々に認知症についての理解を深めてもらう活動のほかに、早期診断、認知症に伴う精神症状・行動症状への対応、身体疾患併発時の対処などが期待されています。その中で、精神不穏が強く身体状態が重篤なケースでは、精神科病床を備えた熊本医療センターにお願いせざるを得ないケースが少なくありません。いつも快く患者さんを引き受け、地域医療を支えてくださる熊本医療センターの先生・スタッフの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

地域の中では、「山鹿・植木認知症ネットワーク研究会」という集まりの中で、脳外科、神経内科、整形外科の先生もいっしょに、地域の関係する人々と連携して地域完結型の対応を目指しているところです。超多忙の熊本医療センターの諸先生にご負担をかけ過ぎないように努めていきたいと思っております。これからもよろしく願います。



認知症疾患医療メンバー

左から、兼田医師、富田連携担当者、竹下心理士、森山医師

## 平成23年度第2回（通算第32回）開放型病院連絡会が開催されました

平成23年度第2回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、MSW、事務の方なども含めて多数の皆様に参加していただき、2月25日（土曜）18時30分より当院2階の研修センターホールにて開催されました。開始に当たり、池井院長がご参加の皆様にお礼を述べた後、熊本型ドクターヘリの運航状況、保育園の新築落成ですべての工事が完成したことなどをご報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員の熊本市医師会副会長加来裕先生よりご挨拶をいただきました。加来先生は、この開放型病院の意義を再確認され、益々開放型病院の先生方と本院の病診連携

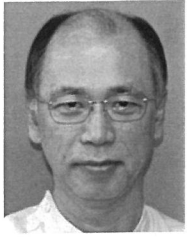
が進むことを希望される旨お話しいただきました。続く全体会議では、熊本市医師会理事の家村昭日朗先生と、河野副院長が進行を担当し、症例呈示として、消化器内科尾上公浩医師による“消化管早期癌における内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の現状”について講演がありました。続いて、病院からの連絡事項として、片渕茂地域医療連携室長から、“インターネットによる地域連携システム”についてご説明致しました。最後に、熊本市歯科医師会会長清村正弥先生より、当開放型病院と歯科医師会との関係のご挨拶をいただき、全体会議をまとめていただきました。その後、特別講演に入り、厚生労働省大臣官房 技術総括審議官 矢島鉄也先生より、“医療イノベーションの動向について”の演題でご講演いただきました。非常に広範な内容にもかかわらず、非常にご丁寧にわかりやすいお話でした。いくつかの質問にも真摯に回答していただき、ご参加いただきました皆様方にもきっとご満足いただけたご講演であったと思います。前回に続き医師以外の方の参加者も多く、大変実りの多い連絡会になったと思われまます。この会の成果として、病病・病診連携がさらに充実しますことを期待しております。

（院長 河野 文夫）

矢島鉄也先生の講演の様子



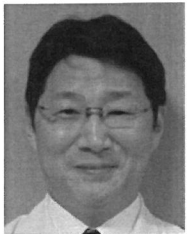
## 就任のご挨拶



副院長  
のむら **野村** かずとし **一俊**

平成24年4月1日付けで副院長に就任致しました。  
これまで登録医の先生方には医療連携ではもとより地

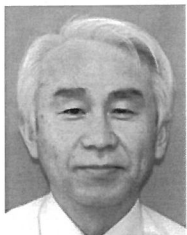
域研修医療センターでの研修や地域連携クリティカルパス等で大変お世話になって参りました。先生方に支えられて当院は急性期病院としての機能向上を図って参ることができました。今後、医療を取り巻く情勢は益々厳しさを増して参りますが、急性期病院としての役割を果たすべく診療機能の質向上を図ると共に地域医療・連携の発展に向けて邁進して参りますので何卒宜しくお願い申し上げます。



副院長  
たかはし **高橋** たけし **毅**

平成24年4月1日付けで副院長に就任致しました。  
仕事の重要性、責務の重大さを思うと身の引き締まる  
思いです。平成4年に当院へ赴任致しまして、信じ難  
いのですがいつの間にか20年の月日が経ってしまった

ようです。この間、登録医の先生方には救急医療を通じて大変お世話になりありがとうございました。先生方にご挨拶して廻ったのが、まだつい最近のように思われます。お陰様を持ちまして、現在では急性期病院として、少しは先生方へのご恩返しができるようになって来たのではないかと感じております。今年度より、河野文夫院長のもと、さらに先生方や患者様に好かれる病院になるよう努力してまいり所存でございます。  
どうぞ、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。



診療統括部長  
かたふち **片渕** しげる **茂**

平成24年4月1日より統括診療部長を拝命しました  
片渕茂です。開放型登録医の先生方には、平成20年4  
月より地域医療連携室長として、大変お世話になり、

厚くお礼申し上げます。今後は、団塊の世代が病気となり、救急疾患、重症患者の増加が予想されます。新しい病院情報システムによる安全管理、効率化、臨床研究の推進などを行い、当院が先生方や地域から、さらに信頼され、頼りにされる病院となるように、河野院長のもと、微力ではありますが、精一杯努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。



眼科医長  
こんどう **近藤** しょうこ **晶子**

4月より眼科医長を務めさせていただくことになりました、近藤晶子と申します。

昭和58年熊本大学卒業後、眼科学教室に入局いたしました。熊大附属病院での研修の後、国立熊本病院時代の当院に、菊池恵楓園と併任という形で、1年3ヶ

月勤務いたしました。今回、新装なった病院の威容に、目を見張っております。熊大附属病院に戻りました後、平成6年より国立療養所菊池恵楓園に勤務いたしました。菊池恵楓園では、ハンセン病後遺症が残る眼に、加齢性疾患が複雑に合併する難症例を数多く診療いたしました。この経験を生かし、県の基幹病院であります当院において、地域医療また救急医療の場で遭遇するに違いない困難な症例に、真摯に立ち向かいたいと存じます。

どうぞよろしくご指導ご鞭撻お願い申し上げます。

# 退任のご挨拶

院長

池井 聰



平成24年3月31日付けで院長を退任致しました。開放型病院登録医の先生方にはこの4年間、大変お世話になり有り難う御座いました。前任の宮崎元院長は平成4年に全国の国立病院・療養所が大幅な赤字で統廃合の嵐の吹き荒れる中に院長に就任し、以来16年間にわたり先頭にたって病院の改革を押し進め、当時は考えも及ばなかった国立病院での開放型病院を実現させ、いち早く地域医療支援病院の認可を得るなど、地域医療連携を推進して、病院の立て直し、発展につくしました。私はこれを継続し、「医療連携と救急医療の推進」を図ってきましたが、なんとかある程

度は役目を果たせたのではと自己満足しています。これは開放型病院登録医の先生方のご指導があったからこそと感謝申し上げます。

院長時代に新病院の竣工、病院移転、新病院での診療を開始すると言う幸運に恵まれました。その後も旧病院の解体、駐車場の整備、ヘリポートの建設等工事が続き、昨年秋の保育園の完成で、在任中にすべての工事を終了する事が出来て一安心しています。

4月から河野副院長が新院長に就任し、高橋 毅、野村一俊の二名が副院長に、片渕茂が統括診療部長に就任します。それぞれが仕事を分担して河野新院長を補佐して、医療レベルの向上をはかり、医療連携をさらに充実させてくれるものと確信しています。

これからも先生方のご期待に添える病院であるよう努力を続けると存じますが、今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。



事務部長

岡田 安正

この度、人事異動により熊本医療センターを去ることになりました。平成22年4月に厚生労働省から当院に赴任して参りましたが、これまでの間、先生方には大変お世話になりました。

当院の整備も、駐車場、ヘリポート、院内保育所の整備を平成23年の秋までに終え、仮設保育所の解体を最後に、平成23年12月に全て完了いたしました。これまで、いろいろとご不便をお掛けしましたことをお詫

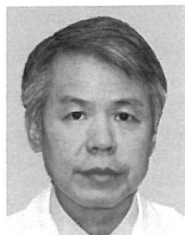
び申し上げます。

当院は、平成23年度に入り、紹介率、逆紹介率とも、着実に伸びてきており、地域の先生方との連携が、さらに深まっているものと思っております。今後とも、当院の運営にご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、この2年間のご指導、ご鞭撻に感謝申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。



# 退任のご挨拶



消化器内科医長

前田 和弘

平成24年3月31日をもって熊本医療センターを退職することになりました。

本院は熊本城内のやや小高い場所にあり街中でありながら静かで眺望も良く恵まれた環境のもと、長年四季の移ろいを感じながら旧国立病院時代から37年余り、特に最後の2年半は最新設備が整った新病院での仕事

となり楽しく充実した勤務医生活を送ることができました。

先生方からは多くの患者様を御紹介頂き、親切・丁寧・迅速・確実をモットーに本院の基本理念である良質で安全な医療の提供に心がけてきましたが少しでもお役に立てたら嬉しく思います。地域連携パスの運用につきましてもご協力いただきありがとうございました。私が担当していた胃婁造設・管理の連携には先生方をはじめ多くの医療従事者、ご家族の協力があり例年140例以上になりまだ増加の傾向にあることも有り難く思っています。

これまでのご指導ご鞭撻に感謝申し上げますと共に、これからも熊本医療センターを宜しくお願い致します。



眼科医長

青木 浩則

平成17年より当院で勤務をはじめ7年ほどになります。その間にはオーダーリングシステムの導入、電子カルテへの移行さらに新病院への移転があり、まさに熊本医療センターの変革の時期であったと思います。私自身も眼科に関連するカルテシステムの構成や新病院の眼科外来の配置にかかわることができ貴重な経験を

積むことができました。残念ながら、現在の眼科のシステムは十分に満足のできるものではなく、スタッフの方々にご迷惑をかけてしまい申し訳なく思っています。

このたび私は熊本赤十字病院に異動することとなりました。皆様からのご指導を糧にして今後も眼科診療に励みたいと存じます。

後任の医師は、私が入局時より現在まで指導をいただいております近藤晶子先生です。人格、知識、経験ともに秀でた方です。引き続きご支援をお願い申し上げます。

最後に、在任中にご指導、ご鞭撻をいただきました諸先生方へお礼を申し上げます。ありがとうございました。



放射線科医長

荒木 裕至

熊本医療センターが今の名称に変更になった平成16年の4月に私は赴任しました。当時の私は国立病院へ移動と言われて来ましたが、新年度のオリエンテーションでこの病院の名称は熊本医療センターですよと言われる、これは違う病院に来てしまったと思い、慌てて部屋の外に出て、『国立病院はどこに移転したのですか?』

と事務の人に尋ねてしまったものでした。

赴任当初の読影室の状況は、10畳ほどのスペースに壁にはシャウカステン複数、部屋の中央には未読影のフィルム山の山、日中はたった1箇所しかない出入り口を常時閉じて、当時3名のスタッフで酸欠になりながら読影をしておりました。

在籍した8年間で、電子カルテの導入やフィルムレス、新規MRI導入、3D作成装置、血管造影装置の更新、新病院への移転、超多列CT装置の導入と、放射線科にとっては追い風に乗った環境整備がなされ、まさにこれからといったところでしたが、突然の人事異動および退任となりました。

在籍中はたくさんの皆様に支えられ、充実した日々でした。心より御礼申し上げます。



呼吸器内科医長

今村 文哉

昨年8月1日に当院に4人目の呼吸器科内科医として赴任させて頂いたばかりで、やっと病院のシステムにも慣れ、これから皆様のお役にたてればと考えておりましたところですが、残念ながら3月31日をもちま

して移動となってしまいました。短期間ですが、非常に多くの症例をご紹介して頂いたにもかかわらず、十分なお返事ができずご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。多種多様な病態の症例を診させて頂き、わたくし自身にとっては、自分の力不足を痛感するとともに、短期間ではありましたが、あらためて勉強させて頂きました。

4月1日からは同じ国立病院機構の合志市にある熊本再春荘病院に勤務させて頂く予定です。北部地域の先生方におかれましては、引き続きお世話になる機会も少なくないと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

# 病棟紹介〈13〉

## 手術室

当手術室は16診療科、年間4600例の予定・緊急手術を行っています。10室ある手術室は各診療科機能に応じた仕様になっています。例えば1号室は主に心臓血管外科手術を行う部屋で人工心肺などをスタンバイしています。3号室はバイオクリーンルーム（クラス100）で主に人工関節置換を行っています。もちろん緊急手術はこの限りではなく、手術室は可能な限り稼働させ手術患者様を受け入れています。

大いなる決意をもって、不安と痛みを耐えながら手術に臨む患者様に対し、医師・看護師・コメディカルからなる手術室チームが各々プロフェッショナルリズムを最大限に発揮し、安全で質の高い手術医療・看護を提供するそんな手術室を目指しています。  
 （手術室看護師長 清田喜代美）



手術室スタッフ



1号室（心臓血管外科手術室）



手術前ミーティングの様子



手術器材確認の様子



手洗いの様子



手術風景



2012

## 診療科紹介(47)

## 循環器内科

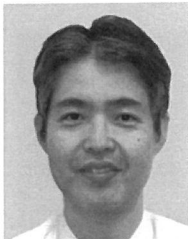


医長

藤本 和輝

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション  
血管新生療法

熊本大学医学部臨床教授  
日本内科学会認定内科専門医  
日本内科学会指導医  
日本循環器学会専門医  
日本循環器学会九州支部評議員  
日本心血管インターベンション治療学会専門医  
日本心血管インターベンション治療学会指導医  
日本心血管インターベンション治療学会代議員  
インフェクションコントロールドクター



医長

宮尾 雄治

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション

日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本循環器学会専門医



医長

古賀 英信

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション

日本内科学会認定医  
熊本循環器学会専門医  
日本心血管インターベンション治療学会認定医

## 診療内容と特色

当科では救急医療に特に力を入れており、急性心筋梗塞、急性心不全、ショック、心肺停止などの重症例に対しても、24時間365日対応出来る体制にあります。また、平成12年2月からモービルCCUが24時間運行可能となり、徐々に出勤回数が増加してきています。尚、平成18年10月からモービルCCUが大型の新規車両となりました。

循環器科と心臓血管外科は、心臓血管センターとして共同で診療し、手術の検討は両者で行い、緊急手術にも迅速に対応しています。さらに、従来の循環器科の治療の他に、血管新生療法にも取り組み、平成18年8月に高度先進医療の承認を受けて、現在までに39例施行し良好な結果を得ています。

- ・日本内科学会教育病院
- ・日本循環器学会研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設



医師

本多 剛

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション

日本内科学会認定医  
日本循環器学会専門医  
日本心血管インターベンション治療学会認定医



医師

石井 正将

循環器疾患一般

## 診療実績

平成23年(1~12月)

新入院患者数	870名
平均在院日数	12.2日
心臓カテーテル検査	652例
経皮的冠動脈形成術	249例
経皮的血管形成術	25例
ペースメーカー植え込み術	72例
CRTD	4例
急性心筋梗塞	131例
血管新生療法	5例

## 研究実績

- 1) 急性心筋梗塞に対する病院前救護や遠隔医療等を含めた超急性期診療体制の構築に関する研究(厚生労働科学研究費補助金)
- 2) 深部静脈血栓症および肺塞栓症に対する悉皆登録研究(国立病院機構多施設共同研究)
- 3) 冠動脈疾患を合併した脂質異常症における血清LDL-コレステロール値管理目標値設定の検討(国立病院機構多施設共同研究)
- 4) 2型糖尿病を併せ持つ高血圧患者におけるメトホルミンの心肥大・心機能に対する効果の検討(国立病院機構EBM研究)
- 5) 実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステントとエベロリムス溶出性ステントの有効性および安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験
- 6) リアルワールドの日本人患者におけるEndeavor ZESを用いる治療後のDAPTの至適実施期間の検討:前向き多施設共同試験
- 7) 冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験

## ご案内

当院では、24時間体制で救急医療を行っています。重症循環器疾患に対してモービルCCU(096-353-6501)を運行しています。さらに、心電図判読FAX相談(24時間対応:096-354-8533)を受け付けています。ご遠慮なく御相談下さい。

# ●●●熊本城マラソンに参加しました●●●

熊本市の政令指定都市移行を記念した「第1回熊本城マラソン」が2月19日熊本市で開かれ、当院からも多くの職員がランナー・ボランティアとして参加しました。

## ～ボランティアとして参加しました～

あらかたの予想を裏切り、何と93.08%の完走率ということでした。準備段階では50%行かないんじゃないかな、救護所は大変なことになるんじゃないかな、という前評判でしたが、蓋を開けてみると、11ヶ所の救護所を利用された方は合計411名で、すべて軽症の方でした。私たち、熊本医療センターは、熊本市医師会、熊本県看護協会との合同チームで、スタート地点、第一高校前、ゴール地点の3ヶ所を担当致しましたが、当院より41名、熊本市医師会より11名、熊本県看護協会

より15名という大人数の参加となりました。結果的に、スタート地点、第一高校前では、あまり救護の機会はありませんでしたが、ゴール地点では、100名を超える方の救護を行いました。特に、3時間から3時間半にかけてゴールされた選手がゴール後に倒れ込むケースが目立ちました。次回からは、ゴール地点により大規模な救護所が必要のようです。しかしながら、早朝から夕方まで凍える寒さの中、手弁当で参加して下さいました先生方、看護師さん方、本当にご協力ありがとうございました。（副院長 高橋 毅）



【救護班C】  
本部・ゴール地点(二の丸公園)



【救護班D】  
国立病院機構熊本医療センター(救急外来前)



【救護班A】  
スタート地点→移動→ゴール地点  
(ビブレス前) (二の丸公園)



【救護班B】  
スタート地点→移動→第一高校前  
(ビブレス前) (福田病院前)

## ～ランナーとして参加しました～

「第1回熊本城マラソンに参加しよう！」私の呼びかけに、口を揃えて「やりましょう！」と歯科口腔外科のレジデント、研修医の4人が応えてくれました。4人は初マラソンだが、歯科の結束を見てもらおうという意気込みも伝わってきたのです。

熊本市歯科医師会も昨年10月に「歯知ろう会」が出来て、11人が当日の完走を目指して練習しており、また清村会長以下11名のAEDモバイル隊も結成され、走者に万が一の事態を想定した訓練を積み重ねられていると聞き、一度に多くの仲間ができた！と心強く感じました。



歯科口腔外科メンバー

厳しい寒さの当日は、15分前にはゲートが締め切れ、流れるようにスタート。沿道には応援の人波が途切れません。大きな声援を受け中間点を超え、熊本港への広い県道へ出ると赤いユニフォームが素敵なAEDモバイル隊に出会い、しっかり力を頂きました。合同練習も行った仲間と一緒に頑張っているんだとの思いを胸に5時間あまりでゴールに辿りつきました。

ハーフを目標にしていた一人を含め、全員完走でした。医療救護体制やAED隊など安全にとっても気を使っている大会そして沿道の応援が素晴らしい大会というのが走って初めての感想です。

ゴール後はモバイル隊を含め合同打ち上げ会を行い、次回はもっと輪を広げたいねと、疲れはそっこのけで皆の希望が語られ、達成感を共有した同志の強い団結を感じた一日となりました。

(歯科口腔外科医長 中島 健)

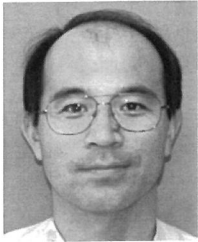
「歯知ろう会」メンバー  
熊本市歯科医師会AEDモバイル隊&





### 最近のトピックス

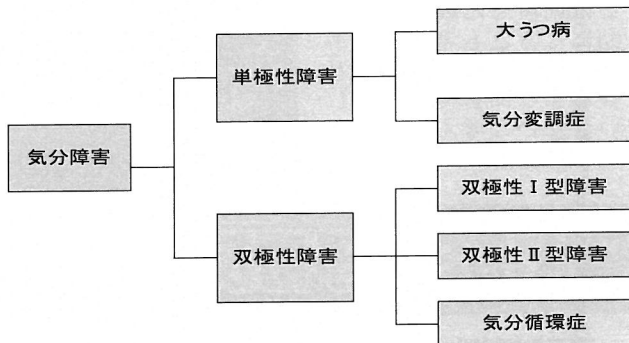
#### 「双極性障害」について



精神科医長

山下 建昭

気分障害は、「うつ状態」のみの単極性障害と「躁状態」と「うつ状態」をくりかえす双極性障害をまとめた概念です。双極性障害は、かつて躁うつ病（狭義）と呼ばれたものです。少なくとも1回以上の「躁状態」か1回以上の「うつ状態」を経験します。周期的に「躁状態」と「うつ状態」を繰り返す双極Ⅰ型障害、軽症で持続期間も短い「軽躁状態」と一時的な「うつ状態」を来す双極Ⅱ型障害、気分循環症に分類されます。（下図）



双極性障害ではアルコールやタバコやカフェインなどの乱用の合併が多いです。「躁状態」では、気分は

爽快で、楽しいです。睡眠欲求は少なく活動性は亢進します。多弁で早口、話題が次々と変わります。アイデアがあふれ、自己感情が高まります。

しかし、愉快なばかりでなく、刺激性が高まり、攻撃的になりやすいです（易怒性）。そのため、双極Ⅰ型障害の「躁状態」では他者との人間関係に重大な支障を来たしえます。また、「うつ状態」では自殺の危険性が極めて高い、単極性障害の「大うつ病」より高いといわれています。双極Ⅰ型では、「躁状態」の時には周囲が困り、「うつ状態」の時には本人が困ります。双極Ⅱ型障害の「軽躁状態」は本人も気がつかないことがあり、注意深い病歴聴取が必要です。双極性障害は遺伝的な体質が考えられています。

双極性障害の「うつ状態」は、大うつ病とほぼ同様のものであり、鑑別することは困難なことが多いです。双極性障害の約2/3の症例では初発の病相が「うつ状態」であるといわれています。「うつ病」と思われた症例が経過の中で双極性障害であったことが判明することになります。安易な抗うつ剤の使用は、躁転の危険性があり注意が必要です。双極性障害の家族歴、25歳未満の発症、過眠、過食がみられれば双極性障害「うつ状態」を疑う必要があります。中途-早朝覚醒を中心とした不眠、食欲低下は単極性障害（大うつ病）に典型的です。

#### 【治療】

大うつ病のうつと同様、自殺予防に十分に配慮します。希死念慮の強いときは入院が必要です。双極Ⅰ型障害では、2回以上躁病エピソードを反覆する場合や、強い家族歴のあった場合、寛解期の予防的治療が重要です。炭酸リチウムやバルプロ酸などの気分調整剤が用いられますが、血中濃度のモニターが必要です。大半の「うつ状態」は外来治療が可能ですが、1) 十分に話を聞くこと、2) 病気についてわかりやすく説明すること、3) 治療方針（薬の効果、副作用など）、4) 心理教育が重要です。

### 「熊本医学会奨励賞」を受賞しました

この度「発展途上国におけるレトロウイルス感染症の予防及び対策ならびに高齢者医療に関する専門家の育成」活動により、栄えある熊本医学会奨励賞〈社会活動部門〉を受賞いたしました。

物質、経済、情報などのグローバル化が進む中、そのバランスを保ち発展の鍵を握るのはやはりヒトです。私共は、特に医療分野において世界的な舞台で活躍できるような人物を育てあげ、それをサポートできるようなネットワークを構築するお手伝いを続けています。その3本の柱が、①厚生労働省所管JICA集団研修「AIDSの予防及び対策」とそれに続く「次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策」、②アフリカ向け第三国研修技術協力の実施に係る在外技術研修講師業務、専門家としてのエジプト・アラブ共和国派遣、③国立病院機構熊本医療センターとタイ国コンケン病院との国



武本医師講演の様子

際協力、姉妹協定締結です。

熊本の国立病院で、世界を背負う新しいリーダーを輩出する夢を追いながら、これからも国際医療協力を力を注いでまいります。このようにやりがいのある仕事を与えていただいた諸先輩方に心から感謝しております。ありがとうございました。

（臨床研究部 特殊疾病研究室長 武本 重毅）

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

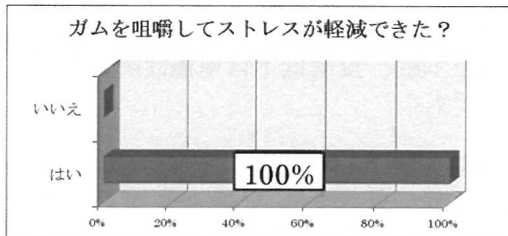
シリーズ64回

## 術後のガム咀嚼によるストレスの緩和について

6東病棟看護師 西村 昌修



大腸癌の術後は2～3日間の絶飲食期間があります。絶飲食は患者にとって精神的にストレスであり、飲水できないことで口腔内が乾燥し苦痛となっている症例も多くみられます。口渇に対してはうがいや歯磨き、綿棒にて口腔内を湿らせるなど対応することができますが絶飲食に対してのストレス緩和には対処方法がなく、看護を行う中で困難を感じていました。先行研究にてガム咀嚼が腸管運動促進に有効であるとされており、ガム咀嚼が絶飲食のストレス緩和に繋がるのではないかと考え、今回の研究に取り組もうと思いました。平成23年7月よりガム咀嚼によるストレス緩和についての看護研究を開始しました。内容は腸管切除術後の患者様を対象とし、絶飲食期間中にガムを咀嚼してもらい、食事開始後にストレスについてのアンケート聴取を行いました。誤飲のリスクを考慮し、板ガムとしました。キシリトールの成分は下痢を引き起こす作用があるためキシリトールを含まないものとししました。



数種の味を準備し、個々の嗜好に合わせることができるようになりました。高齢者の方々には梅味が好評であり、他はブルーベリーやレモン味が人気でした。

現在症例を集めている最中ですが、100%の患者様がガムを噛んでよかったと答えられています。また患者様の中には「ガムを噛む時間が楽しみになってます。」と答えられる方もいらっしゃいます。現時点でガムを咀嚼することで気分不良など不快な気持ちになった患者様はいらっしゃいません。これらのことからガム咀嚼は確実にストレス緩和に効果があると予測されます。今回の研究における難点は症例数がなかなか集まらなかったことです。週2～3例の腸管切除術が行われていますが、今回の研究では糖尿病の既往がある患者様を除外していますので、対象となる患者様が少ないのが現状でした。今後症例数を増やし、確実にガム咀嚼が絶飲食のストレス緩和に効果があることを実証できるように取り組みたいと思います。また手術によって一時的に奪われる食行動が何らかの形で維持できることは術後せん妄の予防の一助になるとも考えられますので、患者様が安楽に過ごせるように看護に活かしていきたいと考えます。



## 「国際医療協力」集団研修コース「AIDSの予防及び対策」

様々な分野でグローバル化が進んでいる今日ですが、当院では27年前から国際医療協力を推し進めています。それは、世界保健機関（WHO）の天然痘根絶強化計画本部長であった蟻田 功先生が、当院の前身である国立熊本病院の第5代院長に就任したときに始まり、当院は厚生省から国際協力基幹施設の認可を受け、海外からの研修員受入れや医療関係者の海外派遣を行うようになりました。

その当時、国際協力に力を入れようと考えていた細川護熙熊本県知事から相談を受けた蟻田先生は、新しい感染症として世界が注目していたヒトレトロウイルスに目をつけ、その第一人者であった熊本大学第二内科高月 清教授を初代コースリーダーとして、当院での国際集団研修第1号である「血液由来感染症セミナー」をスタートしました。平成元年のことです。



平成23年度第1回「次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策」研修員との県庁訪問

平成20年度～平成22年度「AIDSの予防及び対策」集団研修コース研修員 国別受入数

地域	研修員数
アジア地域 (3ヵ国)	5
アフリカ地域 (8ヵ国)	2
中南米地域 (6ヵ国)	2
ヨーロッパ地域 (2ヵ国)	1
合計	10

平成23年度「次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策」集団研修コース研修員 国別受入数

地域	研修員数
アジア地域 (4ヵ国)	1
アフリカ地域 (4ヵ国)	2
中南米地域 (1ヵ国)	1
ヨーロッパ地域 (1ヵ国)	1
合計	5

平成20年度からの4年間に世界25カ国から57名の研修員がAIDS予防のリーダーを目指し熊本に滞在

その後、このコースリーダーは当時臨床研究部長であった河野文夫先生に引き継がれ、平成10年度より「AIDS、ATLコース」と「肝炎コース」の2つに分かれました。そして武本が前者を引き継ぎ、「AIDSの予防及び対策」（平成20年度～22年度）、「次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策」（平成23年度～）を担当しています。私共の研修では、世界でもトップクラスの講師陣を招いてこれまでの経験や実際の取組みについて紹介していただき、講師と研修員との意見交換を通じて、研修員同士のネットワーク形成ならびに自国における予防対策立案をサポートしています。（臨床研究部 特殊疾病研究室長 武本 重毅）

## 国際医療協力 JICA 第三国研修

## 『中東諸国における院内感染対策実施と相互理解のためのワークショップ』に参加して

エジプトのファイユーム大学は、カイロから約130km南西のファイユーム市にある総合大学で、河野文夫院長らの長期間に渡るエジプトとの親善協力により当院と姉妹施設の協定を結んでいる由緒ある大学です。今年度から、当大学はJICA協力のもと、アラブ6カ国の医師・看護師を対象に、院内感染対策に関する研修コースを約3週間開催しました。私はJICAの専門家として、2月11日から19日まで同研修に参加しました。エジプトは私にとって初めて訪れる国ですが、最初に飛行機の上から延々と続く砂漠を見た時は、その広大な景色にただただ圧倒されるばかりでした。カイロ空港に着くと、早速砂嵐の洗礼を受けました。エジプトという昨年3月に起きた革命の傷跡が生々しく残り、治安状況も良くないという風評でしたが、実際行ったら、人々は通常の生活を送っており、特に問題は感じませんでした。

ファイユーム市は古代エジプト中王国時代にはエジプトの首都であった町です。熊本に似て緑に囲まれた農地が広がり、のどかな田園風景が私の心を癒してくれました。大学病院は、市の中心部にあり、正に地域医療を担っている中核病院です。臨床病理学教室のラシャ講師（写真左から4番目の女性）が今回の研修のコースリーダーを務めていました。今回参加したアラブ諸国は政治的にも経済的にもまだ安定していない国が多かったのですが、参加者はさすがに国を代表する面々で、優秀な方々ばかりでした。私は、「日本における



研修の参加者と

標準隔離予防策の実施状況」、「針刺し事故防止策」、「カテーテル関連血流感染症予防策」の3コマの講義を担当しましたが、お陰で参加者と有意義なディスカッションを行うことができました。また、講義以外にも、研修者と一緒にカイロ市内の研究施設をバスで回り、親睦を深めることができました。私にとっては初めて訪れる中東地域であり、そこに住む人々の生活ぶりや習慣を目の当たりにすることができました。当院で行うJICA研修とは一味違う新しい経験となりました。また、参加者やファイユーム大学関係者、JICAスタッフなど多くの友人を得ることができたことは、この上ない喜びです。今後も国際医療協力で微力ながら尽力していきたいと思っております。

（臨床研究部長 芳賀 克夫）

## ■ 研修のご案内 ■

### 第159回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成24年4月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「異物誤嚥の症例について」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

村尾 哲哉

4. ミニレクチャー「成人T細胞白血病のトピックス」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

武本 重毅

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

### 第128回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成24年4月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「出産後に意識障害を来したたこぼ型心筋症とリンパ球性下垂体炎を合併した1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

橋本章子、堀真美子、嶋田さやか、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 「高浸透圧性高血糖症候群を呈した前立腺癌の骨転移を伴う2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

堀真美子、嶋田さやか、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

# 2012年 研修日程表 4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修センターホール	研修室	その他
2日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
3日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
4日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
5日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
6日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
9日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
10日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
11日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
12日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
13日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
16日(月)	19:00~20:30 第159回 月例会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
17日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
18日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
19日(木)		19:00~20:45 第128回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
20日(金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
21日(土)	13:30~17:00 第84回 救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
23日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
25日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
26日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
27日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)